

東部の窓

～校長室だより～



豊川市立東部小学校
令和6年12月16日
【←「家庭科・調理実習・6年」より】

マラソン大会の思い出～もう一つのマラソン大会～

12月5日、校内マラソン大会を実施しました。かけ足運動の期間も含め、子どもたちは自分の目標やめあてに向かってがんばり、充実感に満ちた表情をしていました。苦しい場面があった子もいたかもしれませんが、乗り越えようとしたり継続して努力しようとしたりした子どもたちのがんばりを褒めてあげたい気持ちです。

さて、わたしの担任時代の話をします。運動が、特に走ることが苦手なAさんを受け持ちました。Aさんのマラソン大会後の振り返りの内容を今でも鮮明に覚えています。

「ぼくは足が遅いです。去年の大会も最下位でした。でも今年は走ってよかったです。自分の目標タイムをクリアでき、去年の大会のタイムを大きく短縮できたからです。走るのは苦しかったけど、がんばってよかったです。中学でもぼくなり目標をもってがんばります。」

陸上競技をする人にとって最大の目標は今までの自分の記録を上回ることでしょう。レースの順位も大切かもしれませんが、去年の大会の記録（あるいは今年最初に記録したタイム）の更新こそ、陸上で求めることの本質と言えます。とするならば、Aさんの言葉はその本質をつくものでした。Aさんを含めたこのクラスを受けもって持久走の学習を始めたとき、「昨年の大会の記録からどれだけ短縮することができるか」ということを、クラスでのめあて・目標に設定しました。自分なりの目標タイムや短縮したい秒数を考えさせ、みんながかけ足期間で一生懸命走り続けました。その結果、たくさんの子が大幅に昨年の大会での自分の記録を短縮することができました。そして、Aさんは大会の順位は最下位に近かったのですが、去年のタイムからの短縮秒数は、学級でトップでした。努力の証です。

校内ではマラソン大会で入賞した子どもに集会で表彰状が渡されました。わたしの学級では、レースの順位に関係なく、短縮率トップ10の子たちに自作の賞状を渡しました。「もう一つのマラソン大会」の表彰です。レースのほぼ最下位のAさんが短縮率「優勝」の賞状を受け取り、クラスのみんなから拍手を浴び、照れ臭そうに笑っていました。かけ足中つらい場面もあったと思いますが、そこから目をそらすことなく、真正面から立ち向かっていったAさんの態度・姿勢は価値がありました。

*

レースをするからには1位の子もいれば、最下位の子も現れます。順位を上げるためにがんばることも大切です。一方、順位のみに一喜一憂するのではなく、自分なりの目標をもち、それを達成するために努力を惜しまないこともとても価値があります。東部小の子どもたちも、それぞれ自分の目標に向かってがんばっていたことと思います。子どもたちがかけ足運動や大会を通じて学んだことを生かし、どんな活動でも、今までの自分を超えていけるように、前向きに取り組んでほしいと願っています。

（4月当初にお示しした学校経営ビジョン「目標をもち、目の前のことから逃げない子どもを育てる」ことに通じます）

本年度入賞した子たち、おめでとうございます。また、大会新記録を達成した子たち（6人）、自己ベストタイムを記録したみなさん、よく努力しました。そして、自分の目標を達成した子たちも価値がありました。



人権集会 (12/2) 講師：豊橋人権擁護委員協議会・豊川地区委員会の皆様

人権擁護委員の皆様をお招きし、人権集会を開催しました。全校で人権に関するお話を聞いたり、大型スクリーンに映し出された人権紙芝居「白い魚とサメの子」を観たりしました。お話を聞く中で、どんな立場の人でも幸せに、そして楽しく生きていくことができることが大切で、それが「人権」であるということや、紙芝居を観ることを通して、命の尊さや友情の大切さについて、改めて学ぶことができました。また、『自分らしさ』を出して、みんなで助け合ってよい学校にしていってください』というメッセージに、多くの子どもたちは勇気づけられていたようでした。

今回の集会で得たことや学んだことを、子どもたちがこれからの学校生活に生かして行ってほしいと願います。そうすることで、東部小のキャッチフレーズ「東部小に集まるみんなの笑顔があふれる学校に」また近づいていくと思っています。



にこにこ集会・校長講話から (12/3)

「こだま」って知っていますか？山で「ヤッホー」と言ったら「ヤッホー」と返ってくる、あれです。／ところで、すべて転んでしまったことはないですか？そのとき、「痛い！」と言って、「痛くないよ！」「泣くな！」と言われたらどうしますか？もっと泣いてしまいたい気分になります。先生は小さい頃よく転んでしまう子でした。「痛ーい！」と言ったとき、母親が「痛いね…」と寄り添ってくれたことがありました。それだけで痛みは半分になったことを思い出します。

昨日人権集会がありました。その中で、金子みすゞさんの詩「わたしと小鳥と鈴と」を紹介されました。「みんなちがって、みんないい」という言葉が印象的でした。今日は、その金子みすゞさんが書いた詩をもう一つ紹介します。題名は「こだまでしょうか」です。東日本大震災後、テレビCMでよく流れていたものです。



「遊ぼう」というと「遊ぼう」という／「ばか」というと「ばか」という／「もう遊ばない」というと「遊ばない」という
 そうしてあとでさみしくなって／「ごめんね」というと「ごめんね」という／こだまでしょうか、いいえ誰でも

「こだま」とは、ひょっとすると、向かい合った人を「丸ごと認めて、受け入れてくれる」ものかもしれません。「こだま」とは、そんなやさしい行為なのかもしれません。／ところで、「やさしい」という漢字は書けますか？こんな字です。「憂い」（うれい＝悲しい・心配など）のとなりに人がよりそって、こだましている字です。「にんべん」に「憂い」で「優しい」と書くのです。

「こだますること」、「受け入れること」。そんな、優しい行為を忘れない。東部小のみなさんには、そんな子でいてほしいです。言葉は人を時に傷つけたり、時に癒したりします。キツイ言葉を言ってしまえば、相手は傷ついて、同じようにキツイ言葉を返してくるでしょう。逆にやさしい言葉をかければ、相手もやさしく接してく

東部っ子・フォトギャラリー

笑顔があふれる東部っ子の活動を紹介！(OSA.T)



ちよボウ隊活動 (花苗植え)



社会科見学 (5年)



算数の学習 (2年)



薬物乱用防止教室 (6年)



いもほり (1年)



社会科見学 (4年)



読み聞かせ